



SHINWA KANKYO



新和環境グループ
CSR Report 2020



【新和環境グループのステートメント】

MISSION

目指すのは 環境・経済・人の新たな調和

VISION

社会に必要とされる調和を創る会社

新しい調和を生み出すことに挑戦し続けます。
利益を追求だけでなく、社会に必要とされる会社を目指します。

VALUE

誠実に取り組もう

器用でなくても、愚直に取り組むこと。
真摯であること、ルールを守ること、みんなの力を合わせて取り組むこと。

過程も大切にしよう

それぞれの未来をともに想像し、ひとつになること。
意見が分かれた時は、まずはみんなの意見を聞くこと。

挑戦しよう

新しいことに挑戦し続けること。
困難でも諦めずに取り組むこと。勝負は最後に勝てばいい。

分かち合おう

どうせやるなら、全力でやろう。
振り返ったとき「大変だったけれど楽しかった」とみんなで言い合えるような仕事をしよう。

本質を追求しよう

お客様、仲間、地域社会、自然...
世の中のすべてにとって良いことが、事業の本質であるように。そこから新たな調和が生まれるように。

【Missionを実現する新和環境グループのネットワーク】



Top Message

将来を見据え、より環境に貢献できる企業へ。 “環境・経済・人の新たな調和”を実現する。

一人ひとりのCSR活動がMissionを実現する

新和環境(株)は、1974年の創業以来、産業廃棄物処理をコア事業としながら事業領域を拡大してきました。その過程で再生エネルギーRPF固形燃料の製造、アスベスト対策としての工事業、建築設計業など様々な事業を展開してきました。そして2020年から新たな挑戦として、持続可能なエネルギーの使用を推進する吉川再生可能エネルギーセンターも稼働。地球温暖化防止やCO₂削減など、環境課題の解決をテーマにした事業への挑戦が加速しています。

事業を拡大するに伴い、グループ企業も増加。焼却発電事業を行う(株)東海グリーン、環境コンサルティング事業を行う(株)早稲田環境研究所、電気小売事業を行うWSエネルギー(株)、木質バイオマスから電気・熱・水素・炭といった再生可能エネルギーを創出する(株)バイオ水素エネルギーと(株)高橋製作所など得意分野の異なる会社が集結しました。これらのグループ企業との連携が、これからの時代に合った環境事業推進のための強力なエンジンになると考えています。

2020年4月、こうした現在の新和環境グループの姿を表現し、社内外に発信するため、企業理念を一新しました。「目指すのは環境・経済・人の新たな調和」このMissionを実現するためには、特にCSRへの取り組みも重要になってきます。中でも、当社の根幹を支えるテーマ「環境」「安全」「社会」については、従業員一人ひとりが小さなことにも真剣に取り組んでいます。

「環境」を基盤とする企業として未来を創る

建設系の廃棄物処理および再資源化を行う企業から、吉川再生可能エネルギーセンターの稼働によって、より一層持続可能な社会の実現に貢献できる企業グループになりました。再生可能エネルギーをつくる動脈的な事業を手掛けることで、処理事業の重要性も改めて認識できると考えています。また、自社の使用電力を100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を社会に示す「再エネ100宣言」にも加盟しました。10年、そしてその先を見据えて、今何が必要かを考え、環境企業として成長していきます。

新和環境株式会社
代表取締役

梁川 哲



労働災害ゼロへ。誰もが「安全」に働ける環境を目指す

事業の拡大とともに、安全に対するリスク拡大もきちんと認識しています。拡大するリスクに対応するため、朝礼や会議での注意喚起、コンサルタントによる指導など、安全のための教育をより強化し続けることが重要だと考えています。また、作業環境の改善を目指し、設備の導入にも力を入れ、安全に働ける環境づくりを行っています。

災害時にも活躍。「社会」に愛される企業へ

当社は女性の役職者が多く、男女分け隔てなく重要な役職に登用するなど、従業員が働きやすい環境を整えています。その点を評価され、埼玉県より「多様な働き方実践企業認定」「シニア活躍推進宣言企業認定」を受けました。また、地域社会に愛される企業でありたいと、地域に密着した多くの活動に参加しています。2019年からは災害時の協定を埼玉県吉川警察署と締結。地域社会のために活躍できる場が広がりました。

新和環境グループは“環境・経済・人の新たな調和”を実現するため、社会基盤を支える廃棄物処理事業に誠実に取り組むとともに、新しい事業にも挑戦し続けていきたいと考えています。

新和環境グループの重要テーマ Index



環境 循環型社会の実現へ向け、環境保全に貢献する企業へ

CO₂排出抑制などの環境への配慮と、廃棄物再資源化などの事業を通じ、持続可能な社会の構築に貢献していきます。

P3



安全 社会的責任を全うし、お客様へ安全で安心なサービスを

労働災害ゼロを安全活動のミッションとして、安心・安全に働ける環境づくりを推進していきます。

P7



社会 企業と従業員そして地域の持続的な成長を目指して

多様な価値観を持った従業員が安心して働ける職場環境をつくるとともに、地域社会と協働して生活環境の保全に努めていきます。

P9

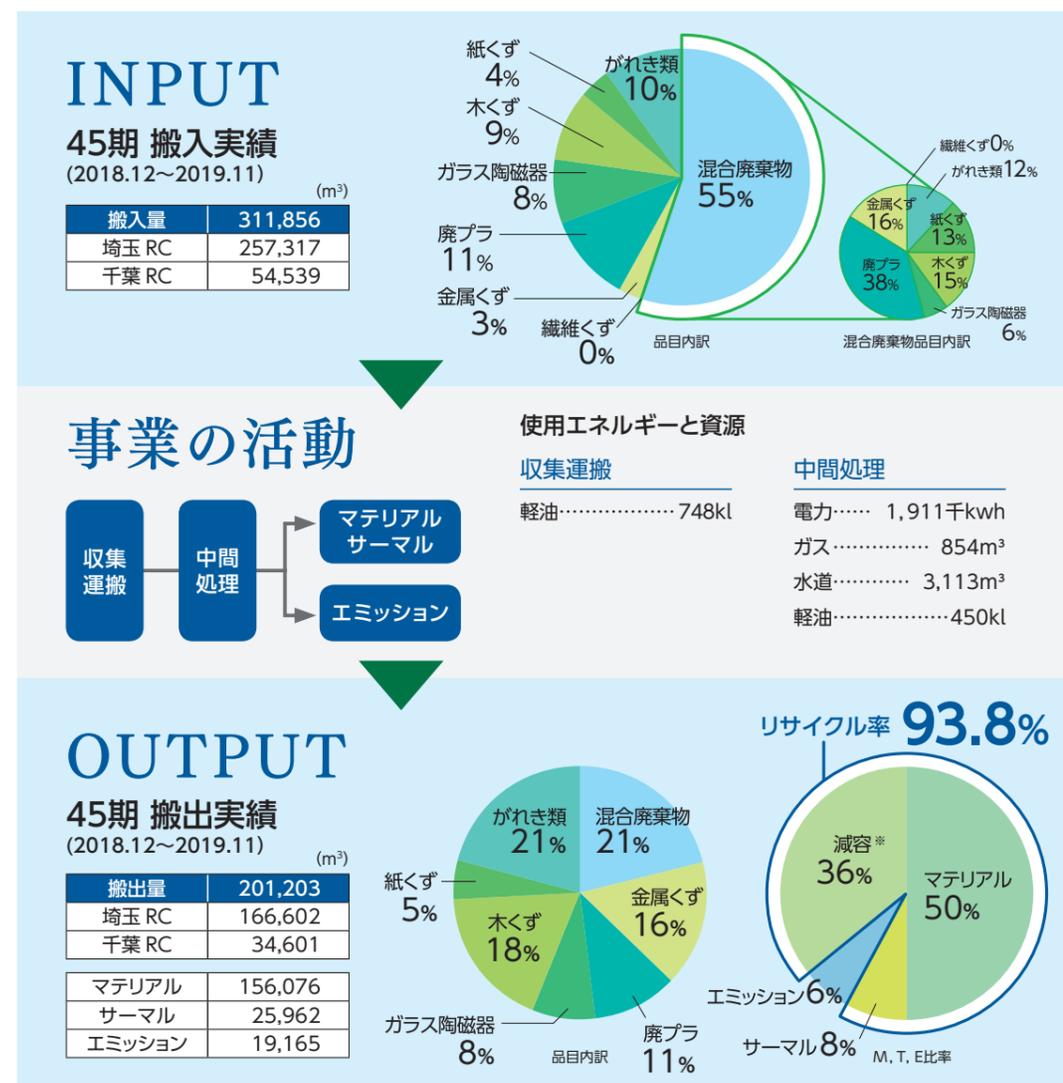
循環型社会の実現へ向け、環境保全に貢献する企業へ

技術の運用を通して、重要課題に積極的に取り組んでいます

新和環境グループでは、「環境が最大のステークホルダー」であると認識し、環境を基盤とする事業を推進しています。
中でも、「CO₂排出抑制」と「再資源化の推進」については、事業を通じて社会の持続可能な発展に貢献していくにあたり、重要な課題と捉えています。
これらの重要課題に対して、当グループでは、産業廃棄物処理事業を通じての環境負荷低減はもちろんのこと、再生可能エネルギー事業を展開し、さらなる循環型社会の実現に寄与していきます。

埼玉・千葉リサイクルセンターの活動実績

事業活動に伴う産業廃棄物を資源とし、高度な再資源化技術でエネルギーに転換しています。また、CO₂排出抑制や高リサイクル率を通して、環境負荷低減に寄与しています。



※減容:「搬入量」から「搬出量」を引いた容積の割合

再エネ100宣言

新和環境(株)は、2019年10月9日に設立された「再エネ100宣言 RE Action」に発足時の参加企業として加盟しています。「再エネ100宣言 RE Action」とは企業、自治体、教育機関、医療機関等の団体が使用電力を100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示し、再エネ100%利用を促進する新たな枠組みです。



アイドリングストップの推進・収集運搬の効率化

アイドリングストップを推進し、排気ガスや騒音の抑制を行っています。また、無駄な車両走行をなくすことで、CO₂排出抑制につなげています。



太陽光発電

埼玉リサイクルセンターの屋根上に71枚の太陽光発電パネルを設置。1年あたり約12,672kgのCO₂排出量低減が期待できます。



蓄電池設置

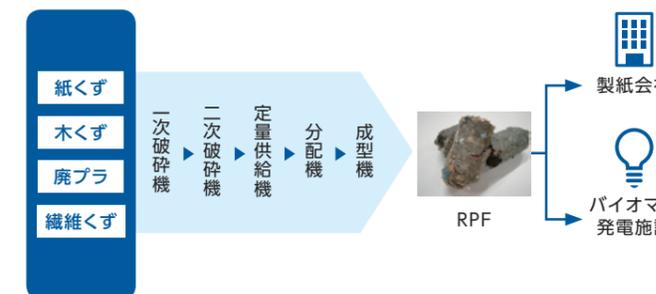
三井物産(株)様が進める分散型電源の実証実験に参画し、蓄電池を設置。工場稼働における電力供給ピーク時の電力調達先を自動切り替えることを可能にし、電力の安定需給を実現します。



RPF (石炭代替燃料)の生成

紙くず、木くず、廃プラスチック類、繊維くずを主原料にRPF* (石炭代替燃料)を生成しています。廃棄物として、焼却・埋立するのではなく、石炭に匹敵する燃料に再生します。また、廃棄物として受け入れた木くずを木質バイオマスチップへ加工し、再生エネルギー事業者への販売も行っています。

※RPF:石炭に代わる燃料。Refuse Paper & Plastic Fuelの略。



サーマルリサイクルを通して、ゼロカーボン社会に貢献していきます

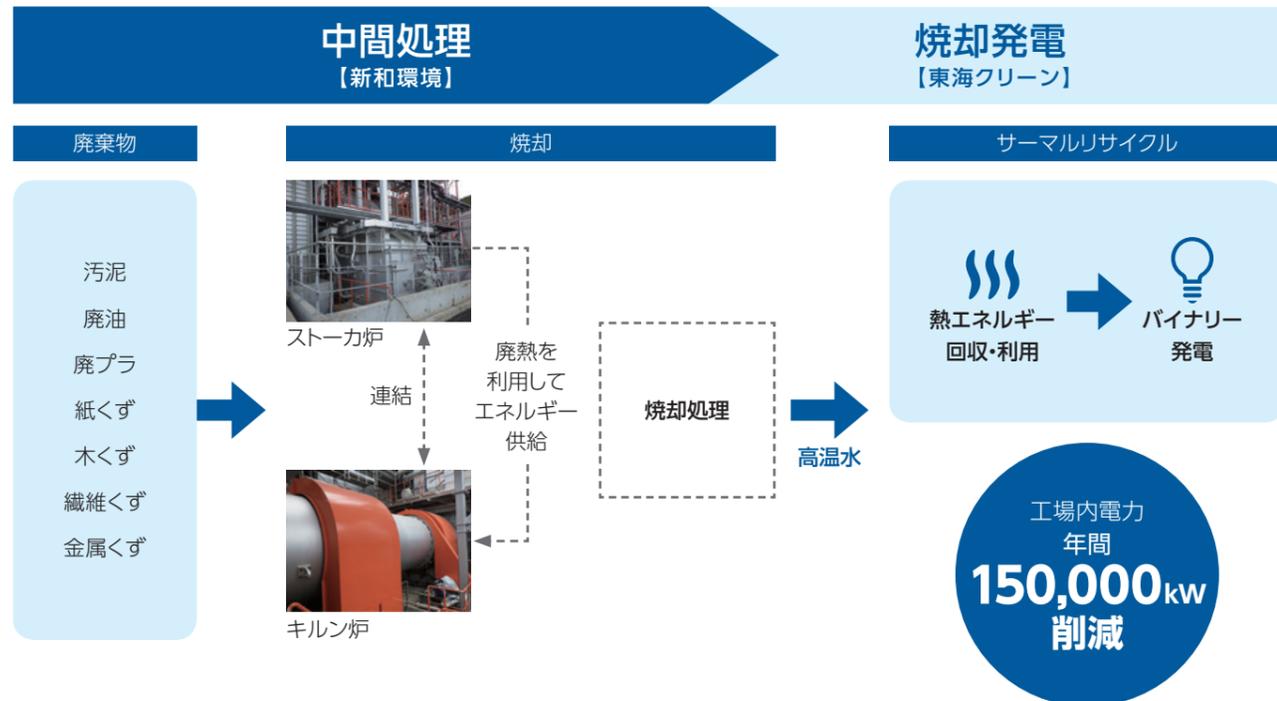
(株)東海クリーンの設立により、グループ内での中間処理から焼却発電までを可能にしました。
 (株)東海クリーンではバイナリー発電設備を導入し、
 焼却の際に発生する未利用熱エネルギー(高温水)を利用して発電しています。
 発電した電気を自社工場で消費することで、省エネ(一般家庭25世帯分)とCO₂排出削減(70トン/年)に貢献しています。
 オープンでクリーンな企業として「Think Globally Act Locally」の精神のもと、
 来るべきゼロカーボン社会に向けて、地球とともに歩み、未来の環境創造に取り組んでいきます。

株式会社東海クリーン 環境への取り組み

- 全照明のLED化
- 高効率焼却事業
2炉ある焼却炉のうちの1炉【ストーカ炉】のエネルギー5,300,000kcal/h(重油換算:560L/h)を、もう1炉の【キルン炉】のエネルギーとして供給
- 焼却灰を無害化し、再生砕石へ
道路の路床材、建築物などの基礎材、駐車場の造成、一般住宅のエクステリア工事などに再利用



株式会社東海クリーン
新和環境(株)と(有)沼田クリーンサービスの共同出資により設立されました。
「産業廃棄物処理事業=環境創造産業」であることを発信していきます。



持続可能なエネルギーの循環、地域経済への貢献を目指します

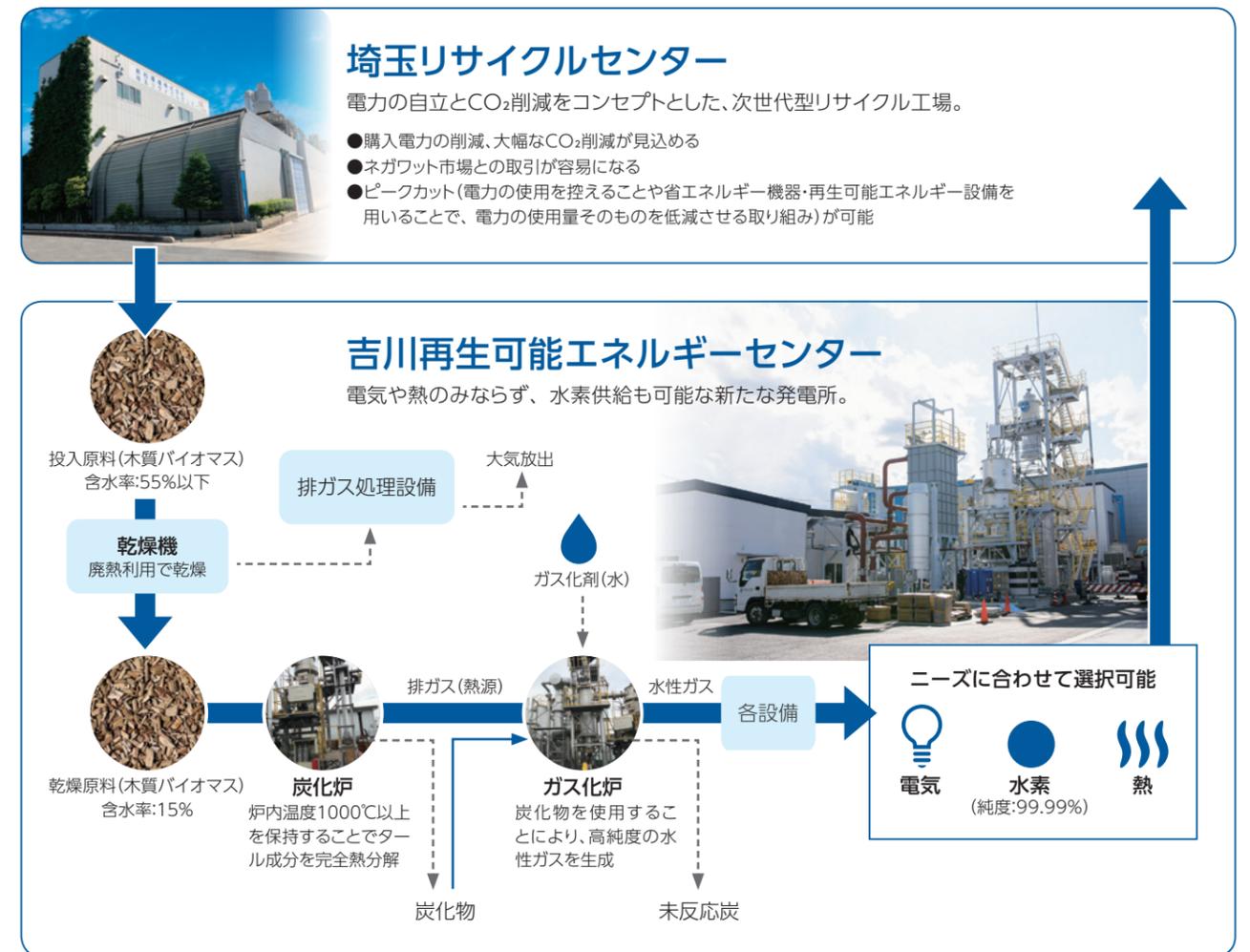
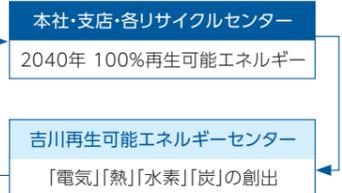
2020年より、埼玉リサイクルセンターの隣地で吉川再生可能エネルギーセンターの稼働がスタートしました。
 吉川再生可能エネルギーセンターは、原料となる木質バイオマスから「電気」「熱」「水素」「炭」を創出し、
 吉川再生可能エネルギーセンターと埼玉リサイクルセンターの稼働エネルギーとして還元することで、
 持続可能なエネルギーの循環を目指します。
 将来的には自社のみならず、地域経済への普及に貢献することが目標です。

吉川再生可能エネルギーセンター 事業コンセプト

- 1 自立分散型のリサイクル工場
蓄電池と発電所のセットでの電力供給
- 2 低CO₂排出型の次世代リサイクル工場
CO₂排出量がゼロの発電所による電気の高効率利用
- 3 地域へのエネルギー供給事業への参画
創出したエネルギー供給による新たな事業の推進

事業活動で使用する電力を
100%再生可能エネルギーへ

再エネ100宣言
RE Action



社会的責任を全うし、お客様へ安全で安心なサービスを

「労働災害ゼロ」実現のため、日々事業を支えています

新和環境(株)では、「労働災害ゼロ」を安全活動のミッションに掲げ、お客様・地域社会・従業員にとって、安心・安全な環境づくりを引き続き、推進していきます。ここでは、現場で事業を支える従業員の声をもとに「安全管理」「安全環境」「安全教育」を柱とした、当社の具体的な取り組みの一部をご紹介します。

「家族が働いても安心してできる工場」
作業環境を改善する基準は



事業部 部長 兼 埼玉リサイクルセンター 工場長
附田 健志

事業部では、埼玉・千葉リサイクルセンターの運営管理を行っています。当社の中核事業として安全管理を最優先に掲げ、当社工場における中間処理はもちろん、提携先の再資源化工場、最終処分場まで廃棄物の行く先を見届けるのが我々の責務です。より安全管理体制を整備するため、建設会社出身のコンサルタントによる月に1度の工場内パトロールを実施している他、安全手順書の作成、危険予知(KY)活動の徹底、無事故手当の給付などを実施しています。

安全を考えるうえで、大切なのは「自分の家族が働いている工場」だということ。健康面に配慮し、従業員の意見を取り入れながら、集じん機や涼風装置の導入をはじめとする設備投資を進めています。埼玉県産業廃棄物処理業者によるイメージアップ活動「3S運動(スマイル・セイケツ・スタイル)」にも登録し、平成30年度にはルーフファンの設置など作業環境の改善が評価され、「スタイル」部門最優秀賞を受賞しました。

今後は工場運営のオートメーション化、安全や品質管理に関する社員の意識向上、さらなる作業環境改善を目指し、安全かつ清潔な事業グループとしての価値をより一層高めていきたいと思っております。

ドライバーの知識と経験が
水際での安全対策に貢献



収集運搬部 部長
渡邊 正則

大手ゼネコンなどの建設・解体現場から排出された廃棄物を収集し、埼玉・千葉リサイクルセンターに運搬するのが収集運搬部です。ドライバーは車両運転や廃材の積み降ろしのみならず、現場で廃棄物を見極め、分別する重要な役割を担っています。例えば、許可品目であるか、契約に沿った品目であるかなどを確認しなければなりません。そうしたリスクを水際で食い止めるため、ベテラン社員との長期マンツーマン研修などの教育を徹底しています。

また、安全運搬にも配慮し、デジタルタコグラフや通信機能付きドライブレコーダーで運転を「見える化」しています。さらに、近年は荷降ろし作業の安全対策として、荷台に安全バーを設置したり、台車ごと荷台に積めるようにしたりと、自動車メーカーとともに車両の改良にも力を入れています。

ここまで念入りに対策を講じるのは、収集運搬部のドライバー各々が当社の基盤である安全を担っているから。ドライバーが中核事業に及ぼす影響を鑑みて、彼らの意見を全社に反映させるシステムも構築しました。今後もソフトとハードの両面で、リスク低減、安全環境の保全に努めていきます。

入念な現場パトロールで、事故を未然に防止

廃棄物を収集する現場に赴き、ドライバーの作業環境をチェックしています。ドライバーから現場の危険箇所の指摘があれば、先方の現場監督に事故発生の可能性があることを告げ、改善策を提言します。例えば、天井が低い場所でクレーン作業

が行われていたときには、営業部と連携し、安全に操作できる車種を提案しました。他にも、出発前に現場に連絡を入れることでキャンセル件数を削減したり、安全会議や安全ルール周知会を実施するなど安全環境の改善に日々取り組んでいます。

収集運搬部 管理グループ 専門副長
小峰 龍司

小規模だからこそ、細やかな目配りで安全を確保

千葉リサイクルセンターは、作業員と重機の距離が近いコンパクトな施設です。接触や挟まれ事故を防ぐため、約5人の作業員は重機オペレーターの目に留まるよう蛍光色のベストを着用し、定位置で作業しています。危険行動があればすぐに

指摘し合う他、外部コンサルタントからの指導も徹底して行われます。屋外作業なので、夏の熱中症対策、雨天の転倒防止策にも留意します。今後も、安全性と効率性を両立した工場運営を心掛けていきます。

事業部 千葉リサイクルセンター 主任
佐久間 龍正

目に見えないものだからこそ、細心の注意を払う

建物の解体・改修工事現場でアスベスト除去工事の施工管理を行っています。最も重要なのは、アスベストの飛散や暴露を絶対にさせないこと。法律に則って、作業前、作業中、作業後のアスベストの測定を行うことはもちろん、計画書通りの

作業着やマスクの使用を徹底。協力会社と率直に意見交換できる関係をつくるため、積極的にコミュニケーションを図っています。社会の関心が高い仕事であることを自覚し、ルールを順守し続けることが安全につながると考えています。

建築事業部
小林 和哉

注意項目を徹底的に洗い出し、改善を重ね続ける

吉川再生可能エネルギーセンターで現場管理を担当しています。稼働前から、安全かつ効率的に運用するため、工場建設経験の長い中島のアドバイスや事故事例を参考に、注意すべき項目の洗い出しを徹底的に行ってきました。稼働後も、機械を動かしながら運用改善を重ねていきます。稼働後しばらくは、安全性を確認するため、自社のみで電力を活用します。電気のみならず、水素や熱も生み出すこのセンターを成功させ、再生可能エネルギーの普及に貢献していきたいです。



事業部 埼玉リサイクルセンター 主任
林 大地

経営企画部 シニアテクニカルディレクター 工学博士
中島 充幸

何が起ころうと、安全に運用できる工場をつくる

吉川再生可能エネルギーセンター建設工事のプロジェクトマネジャーを担っています。建設現場では事故防止のため、安全責任者を任命し、ミーティングや巡回を行うなど、組織的に安全対策を実施しています。工場の稼働後、特に重要なのは、停電や大地震、機械の故障など不測の事態が起こったときに、機械を速やかに停止させること。安全教育を行うとともに、たとえ人為的ミスがあっても事故を回避できるよう安全装置を設置し、本質的に安全が確保できる設計にしています。

企業と従業員そして地域の持続的な成長を目指して

多様な価値観が集まる、安心で活発な職場環境づくり

従業員は事業発展の源泉であり、重要な経営資本です。仕事のやりがいを高め、就労意欲を引き出すことが、会社と従業員双方の持続的な成長につながると考えています。新和環境(株)では、人権を尊重し、多様な価値観を持った従業員が安心していきいきと働ける職場環境づくりを進めています。



高齢者の活躍支援

新和環境(株)は、高齢者の活躍支援を重要な課題の一つと捉え、シニアの方が働きやすい環境づくりに努めています。多様な人材の活躍により、企業の競争力を高め、持続可能な競争力を持つ企業になることを目指しています。

このような取り組みにより、埼玉県より「シニア活躍推進宣言企業認定」をいただいています。

分別講習

講習会は排出事業者や作業員が集まる場となり、当社従業員が産業廃棄物処理の知識をお伝えしています。分別ハンドブックの読み合わせを行ったり、分別のポイントをお伝えし、知識を深めていただきます。リサイクル意識と分別効率の向上につなげることを目的とし、環境負荷低減にも貢献します。



ワークライフ・バランス推進

従業員が「仕事」と「生活」を心から楽しみ、いきいきと活動できる環境こそが、事業活動をより良いものにしていくと考えています。生産性向上による効率的な働き方が仕事の質を向上させ、従業員の仕事と生活をより充実したものにする考え、勤務時間管理の徹底や有給休暇取得の促進、従業員のライフスタイルに応じた働き方の選択肢を増やすことなど、ワークライフ・バランスの充実を推進しています。

埼玉県より「多様な働き方実践企業認定」もいただいています。新和環境(株)は、認定基準をすべて満たし、プラチナ認定を取得しています。



新年会の開催

年初は、新年会が恒例行事となっています。会社の運営に日頃からご協力いただいている顧問や協力会社の方々をはじめ、従業員とその家族への感謝の気持ちを込めた催しです。約300人が一堂に集まります。

ビンゴ大会、永年勤続の従業員への表彰、各部門紹介などを行い、新和環境グループへの理解を深めてもらう機会にもなっています。



地域社会と協働することで、生活環境の保全に努めます

地域社会とのコミュニケーションを積極的に行い、環境事業への理解を促進するとともに、地域社会と協働して生活環境の保全に努めていきます。ここでは、事業活動の各段階において、環境や地域社会に配慮するために実施している各種活動や交流イベントなどをご紹介します。

災害発生時の優先供給協定締結

2019年3月、災害発生に備え、吉川警察署と「災害発生時における車両、オペレーター等優先供給に関する協定」を締結しました。建物の倒壊により発生する障害物の撤去や運搬を行い、吉川警察署が救助活動を円滑に行えるように協力します。



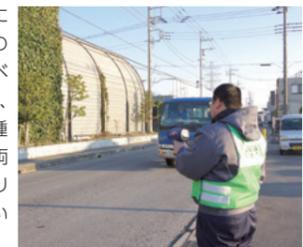
環境パトロール(1回/2ヶ月)

吉川工専工業会・環境部会の会員として、環境パトロールを実施しています。部会の他に環境ネットワークよしかわ(市民団体)、吉川市環境課、越谷環境管理事務所も参加。施設関係(保護衣の着用や整理整頓)においてそれぞれの約束事を各社が履行しているか確認し合う活動です。地域の企業・市民が互いに約束事を履行しているか確認し合うため、抑止力にもつながっています。また、パトロール報告は3ヶ月ごとに環境部会で行います。環境ネットワークよしかわのHPでも「小松川工業団地内環境パトロールレポート」として情報開示されています。



交通安全啓蒙活動

事業車両と一般車両の安全利用に関する交通ルールの順守やマナーの向上を図るため、速度計測、シートベルト着用の有無、携帯電話使用状況、歩行者優先実行の有無について車種ごとにチェックしています。大型車両のエンジン音は大きいので、実際より速度が出ているように誤解されやすいので、より一層の配慮が必要です。



千葉県 災害廃棄物処理への参加

2019年に起きた台風15号・19号および10月25日の大雨被害により発生した災害廃棄物の処理に参加しました。災害に遭われた方々から「浸水した物は重くて運べないので助かります。ありがとうございます」といった感謝の言葉をいただきました。引き続き、可能な限り支援に努めていきます。



工専夏祭り(1回/年)

環境に関わる産業として地域住民の方のご理解・ご協力は不可欠です。地域の皆様楽しんでいただくため、日頃の感謝の気持ちを込めて屋台を出し、当社も吉川工専工業会の一員として参加しています。



環境展(1回/年)

環境の大切さを多くの地域の方にお伝えしていくために、パネルやパンフレットを掲示し、事業内容もご紹介しながら環境やエコをテーマにした発表を行っています。



定期清掃活動(1回/2週間)

吉川工専工業会・環境部会の会員として、定期清掃活動を実施しています。会員が所有する清掃車にて周辺地域の清掃を行っています。粉じんや悪臭などの発生を防止する美化活動の一環となっています。



ホームページでも新和环境グループのCSR情報をご覧いただけます。



URL <https://shinwa-eco.com/>

このレポートに関するお問い合わせ先

新和环境株式会社
管理部
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-21-12
TEL:03(3208)5047

新和环境株式会社

事業拠点

[本社]

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-21-12
TEL:03(3208)5047 FAX:03(3208)5113

[配車センター]

〒342-0043 埼玉県吉川市小松川567-1
TEL:048(981)4511 FAX:048(984)3779

[埼玉リサイクルセンター]

〒342-0043 埼玉県吉川市小松川567-1
TEL:048(983)0631 FAX:048(981)7612

[千葉リサイクルセンター]

〒272-0103 千葉県市川市本行徳2554-59
TEL:047(399)2526 FAX:047(397)9538

[大阪支店]

〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島3-5-23
TEL:06(4795)5660 FAX:06(4795)5666

グループ企業

新和エクスプレス有限会社
(運輸業務委託)

新和プラントサービス有限会社
(工場業務委託)

株式会社東海クリーン
(一般廃棄物・産業廃棄物処理業)

株式会社早稲田環境研究所
(環境コンサルティング・省エネ・創エネ・リサイクル)

WSエナジー株式会社
(小売電気事業 登録番号A0581)

株式会社バイオ水素エナジー
(木質バイオマスによる再生エネルギー・水素・熱供給事業の企画・販売)

株式会社高橋製作所
(バイオマスプラントの開発・設計・製造及びメンテナンス)

株式会社新和設計
(一級建築士事務所)

本報告書の対象範囲

[対象組織] 新和环境グループ

[対象分野] 上記対象組織における環境・安全・社会的側面の活動実績を掲載しています。

[対象期間] 2019年度

※一部、対象期間外の活動報告も含んでいます。

[発行年月] 2020年6月